

I コロナの恵み：マイナスがあれば必ずプラスもある

1, 大きなマイナスの中にあるプラスの幾つか

- ① 生物兵器でウィルスを用いることは無くなるだろう：ウィルス変異の速さ
 - ・これだけ変異があればコントロールはできない
- ② 先進諸国の社会保障財政は若干改善されたと思われる：高齢者死者数と景気後退
 - ・日本では年金財政の若干の改善にとどまるがあまり顕著でない
 - ・ヨーロッパではかなり効果があったのではないか：自然の摂理が加速した
- ③ オンライン診療の有効性が明確になった：デジタル化の遅れ
 - ・医師会は反対も：リモートセンサーの発達で十分の対応が可能と多くの人が理解
 - ・その他多くの分野のデジタル化の可能性が見えてきた

2, マイナス面が明確になったことで今後役に立ちそうなこと

- ① 日本の緊急時体制の問題が明らかになった
 - ・この状況で戦争が起きたら戒厳令さえ発令できないのではないのか？
 - ・非常時には指揮命令権を一本化すべき：強制力を持った機動的改変は必須
- ② 感染症の専門家たちが科学者でないことが分かった
 - ・北里柴三郎は行動する必要性から研究所を自治省の管轄下に置いた
 - ・オミクロン時顕著だった現場の医師たちと専門家の意見の乖離：沖縄の経験は？
- ③ 医療体制が感染症のような事態に対応できていないことが分かった
 - ・2003年に研修医指定制度が開始された：白い巨塔を排除するためだったという
 - ・だがこれに代わる医師の人事権を埋め込むことができなかった
 - ・徳洲会とセコム：逆に公的病院の院長は看護師の人事権を持っていない
- ④ 非常時には科学的姿勢が必要なことがはっきりした
 - ・事実に基づく科学的判断でなく情緒的な判断を行うことは益なし
 - ・インフルより少ない死者数でなぜこんな状況になってしまうのか
- ⑤ 厚生省の課題が極めてはっきり出てきた
 - ・厚生省と郵政省は特殊な官庁だった
 - ーキャリア、ノンキャリア、自治労の世界が同居：保健所と年金事務所の課題
 - ・日本発の薬品に対して認可できない体質：アメリカが認可すれば遅れて認可
 - ーイレッサと子宮頸癌ワクチンの記憶？：アビガン、イベルメクチンは？
 - ・医薬品、医療機器認可の不透明性
 - ー血中酸素飽和度や心電図はスマートウォッチでモニター可能だが
 - ー薬事認可は最低5年とも：アップルは血糖値では薬事申請せずともいわれる
 - ・技官の問題：例えば調剤でも一人の薬剤師は一日40処方しかできない
- ⑥ メディアの問題がはっきりした
 - ・恐怖を煽ることが最も簡単に視聴率を稼げるという問題 などなど